

整形外科研修プログラム

I 一般目標(GIO)

一般的整形外科外傷のプライマリーケアや、脊椎脊髄疾患・外傷、手の外科疾患・外傷の基本的診断および治療方法を習得する。

II 行動目標(SBO)

- * 骨、関節、筋肉、神経系の診察ができ、正確な身体所見がとれる。
- * レントゲン写真、CT、MRI など必要な画像検査の指示を出す。
- * 身体所見と画像検査を元に、処置、処方、手術等の適応が判断でき、基本的治療計画を立てられる。
- * 治療方法のうち、指示、処方、基本的手技、手術助手、周術期管理、リハビリ処方が実施できる。
- * 症状・病態・検査から鑑別診断をあげ、初期治療が出来る。

III 方略 (LS)

1) 救急外来

- * 整形外科的な救急外傷患者の診断と初期治療を上級医とともに経験する。
- * 創傷処理や縫合の仕方を学ぶ。
- * よくみられる骨折や脱臼の整復の仕方を学ぶ。
- * 外傷患者さんのレントゲン写真の指示の出し方や読み方を学ぶ。
- * 包帯の基本的な巻き方を学ぶ。
- * シーネの基本的なあて方、固定の仕方を学ぶ。
- * ギプスの基本的な巻き方と良肢位を学ぶ。
- * 内服薬（消炎鎮痛剤や抗生剤）や湿布の処方の仕方を学ぶ。

2) 外来診療

- * 問診と診察を行い、診療録に記載する。
- * レントゲン写真、CT、MRI などの検査の指示を出す。
- * 指導医の診察、説明、治療を見学する。
- * 造影検査、関節内注射、神経ブロック、創処置、ギプスやシーネの手技を実施する。
- * 脊椎脊髄疾患および外傷の保存的治療を学ぶ。
- * 手の外科外傷の保存的治療を学ぶ。

3) 入院診療

- * 上級の指導医とともに担当医として患者を受け持つ。
- * 脊髄外科の基本的診察法（四肢の反射、知覚障害、筋力低下の取り方）を習得する。
- * 四肢の基本的診察法（視診、触診、角度の計測）を習得する。

- * 入院患者の問診および身体所見をとり、診療録に記載する。
術前評価・手術計画・インフォームドコンセント、術後管理、リハビリテーションの実際を体験する。

4) 手術的治療

- * 手術助手として手術に立ち会う。
- * 糸結び、創縫合、簡単な骨接合術、抜釘術を体験する。

5) 勉強会・カンファレンス

- * 毎週火曜日の術前カンファレンスに参加する。
- * 術前検討会で受け持ち患者の現病歴、神経学的所見を発表し、画像所見を読影する。
- * 毎週金曜日の副院長回診に参加する。

6) 院外研修

地方会、研究会に参加する。時に発表する。